

令和8年6月16日

「回復期リハビリテーション病棟の入退院時における Functional Independence Measure (FIM) に係る実態調査研究」について

当院では、回復期リハビリテーション病棟に入院された患者の入退院時における日常生活動作に関する実態を把握するため、「回復期リハビリテーション病棟の入退院時における Functional Independence Measure (FIM) に係る実態調査研究」を実施しており、入院された患者を対象に FIM を調査し、日常生活動作の実態、経過、対応等を明らかにする研究を行うこととしています。本調査研究では、当院の職員が下記の診療情報等を使って、下記の調査研究を実施しています。本調査研究の詳細についてお知りになりたい方は、下記の問い合わせ先まで直接お問い合わせください。なお、本調査研究の対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の診療情報等を「この研究に利用・提供してほしくない」と思われる方は、下記の問い合わせ先までお申し出ください。その場合でも不利益が生じることはありません。

《研究課題名》

回復期リハビリテーション病棟の入退院時における Functional Independence Measure (FIM) に係る実態調査研究

《研究の研究代表機関及び研究代表者》

研究代表機関・研究代表者

済生会今治第二病院 リハビリテーション科 リハビリ統括管理者 池内貴美

本研究に関する問い合わせ先

研究事務局 済生会今治第二病院 担当者 池内貴美

電話：0898-23-0100

《研究対象者》 2016 年 4 月 1 日～2031 年 3 月 31 日までに当院入院された方

《利用する診療情報等の項目》

診療録に記録された診療情報等：年齢、性別、疾患名、入院期間、発症からの期間、FIM、Basic Physical Performance Test (BPPT) など

※利用に際しては、研究計画書に定めた方法に従って、個人情報等を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

《利用の目的》

令和 8 年度診療報酬改定により、回復期リハビリテーション病棟において、トイレ動作と移動動作が在宅復帰の観点で重要視されており、特に先行研究においても、トイレ動作が自立に至るかどうかで在宅復帰の可否は大きく影響を受けるとしている。また、他の先行研究においては、移動手段よりも排泄自立が可能かどうかにより自宅退院の可否が分かれるとの報告もある。

そのため、当院において、入院時に患者がどのような状態であれば自宅退院が可能となるかを検証することは、在宅復帰を積極的に支援していく上で大変意義があると考えます。また、今後は、FIM の調査を通して様々な研究の幅を広げていきたいと考えます。

《研究実施期間》

期間：研究の実施許可日より 2031 年 3 月 31 日までの間（予定）

《この研究での診療情報等の取扱い》

済生会今治第二病院倫理審査委員会の承認を受けた研究計画書に従い、お預かりした診療情報等から氏名、生年月日等の情報を削り、個人が特定されないように加工をしたうえで取り扱います。

《研究責任者及び研究内容の問い合わせ先》

研究代表者

済生会今治第二病院 リハビリテーション科 リハビリ統括管理者 池内貴美

本研究に関する問い合わせ先

研究事務局 済生会今治第二病院 担当者 池内貴美

電話：0898-23-0100